



■ 適用病害虫と使用方法

2021年10月現在

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	オキサソスルフィルを含む農薬の総使用回数	ジクロベンチアゾクスを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ イネドロオウムシ コブノメイガ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り 50g	は種時 (覆土前) ～ 移植当日	1回	育苗箱の上から 均一に散布する。	1回	1回
	ニカメイチュウ		移植当日				

【使用上の注意事項】

- 所定量を育苗箱中の苗の上から均一に散布してください。なお、葉に付着した薬剤は軽く払い落としてください。
- 苗を田植え機にのせる際、育苗箱の土壌表面が乾燥している場合は薬剤が落下するおそれがあるため、散布後に葉に付着した薬剤を払い落とした後軽く灌水してください。
- 軟弱徒長苗、むれ苗または苗の生育が不良な場合には、薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはいねいにを行い、移植後田面が露出しないように注意してください。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないでください。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田及び隣接した水田ではいぐさを栽培しないでください。
- きく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布してください。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさけてください。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意してください。

本資料は2021年10月現在の知見に基づいて制作しております。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。●防除日誌を記載しましょう。



技術資料

水稻 育苗箱用 殺虫・殺菌剤

ブーンアレス®
箱粒剤



幅広い害虫に
Oxazosulfyl
オキサソスルフィル

アレス®は住友化学(株)の登録商標
ブーン®はクミアイ化学工業(株)の登録商標

特長

新規の抵抗性誘導剤ブーン® (一般名:ジクロベンチアゾクス)を配合

ブーン®はクミアイ化学工業株式会社が創製し、JA全農(全国農業協同組合連合会)と共同で開発した新規殺菌剤です。ブーン®は植物の病害応答反応を増強して病気にかかりにくくする病害抵抗性誘導剤として作用し、いもち病に高い効果を示します。また、水稲へ高い安全性を示します。

新規殺虫剤アレス®(一般名:オキサゾスルフィル)を配合

アレス®は既存の殺虫剤とは異なる骨格をもつ新規の殺虫剤成分です。1成分で水稲の主要害虫であるコウチュウ目害虫、ウンカ類、チョウ目害虫と幅広く効果を発揮し、既存薬剤に抵抗性を発達させたウンカ類やイネドロオイムシなどへも高い効果を示します。

2成分で主要病害虫を幅広く防除

ブーン®とアレス®の組み合わせにより、2成分で水稲の主要病害虫を総合的に長期間防除します。

播種時～移植当日まで幅広い処理適期

水稲に対する安全性が高く、効果の持続性も長いため1製剤で播種時から移植当日まで、いつでも使用できます。



有効成分と物理化学的性状

商品名: ブーンアレス箱粒剤
 農林水産省登録: 第24517号
 開発コード: KUM-1901箱粒剤
 種類名: オキサゾスルフィル・ジクロベンチアゾクス粒剤
 性状: 類白色～淡褐色細粒

有効成分	オキサゾスルフィル	ジクロベンチアゾクス
含有量	2.0%	2.0%
化学名	2-[3-(エチルスルホニル)-2-ピリジル]-5-(トリフルオロメチルスルホニル)-1,3-ベンゾオキサゾール	3-(3,4-ジクロロ-1,2-チアゾール-5-イルメトキシ)-1,2-ベンゾチアゾール=1,1-ジオキソド
構造式		
分子量	420.38	349.21
水溶解度(20℃)	15.6mg/L	0.36mg/L

安全性

■製剤安全性

人畜毒性(製剤):普通物(毒物・劇物に該当しないものを指していう通称)

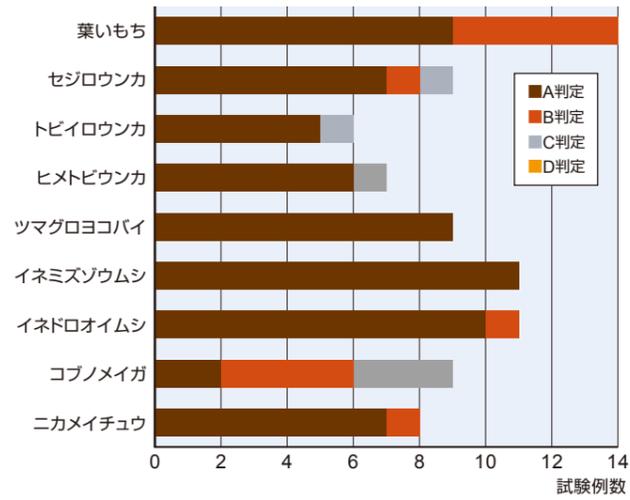
試験の種類	供試動物	LD ₅₀ (mg/kg)
急性毒性(経口)	ラット♀	>2000
急性毒性(経皮)	ラット♂♀	>2000
皮膚刺激性	ウサギ	刺激性なし
眼刺激性	ウサギ	軽度刺激性
皮膚感作性	モルモット	陰性

■水産動植物への影響

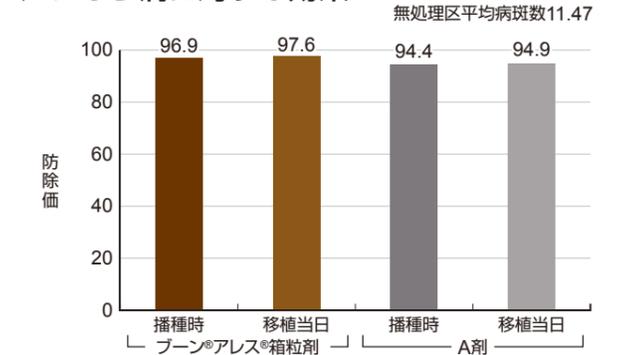
試験の種類	供試動物	LD ₅₀ またはEC ₅₀ (mg/L)
魚類急性毒性	コイ	934
ミジンコ類急性遊泳阻害	オオミジンコ	119
藻類生長阻害	緑藻	56.6

新農薬実用化試験成績

▶各種病害虫に対する評価 (2019年～2020年新農薬実用化試験総合判定)

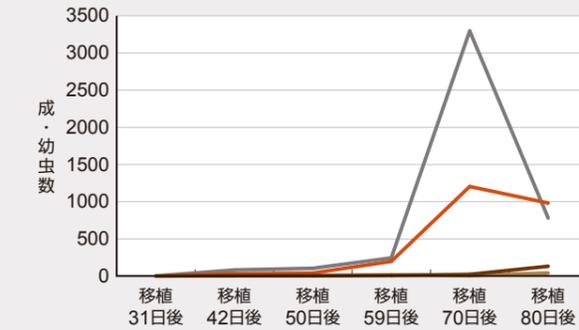


▶いもち病に対する効果



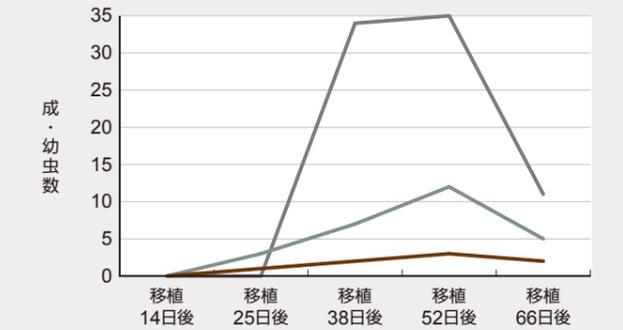
2019年 秋田県農業試験場
 品種: ナツミノリ
 区制・面積: 45.9㎡ 2連制
 播種: 4月10日
 移植: 5月13日 発生程度: 中発生(接種)
 調査日: 7月23日(移植71日後)
 調査方法: 各区100株の上位3葉の病斑数を調査し、防除値を算出した。

▶トビイロウンカに対する効果



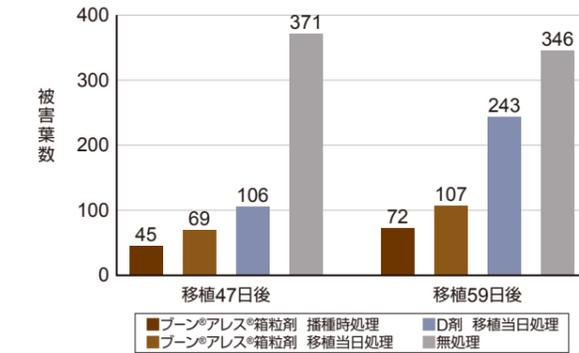
2019年 鹿児島県農業開発総合センター
 品種: あきほなみ
 区制・面積: 132㎡ (22m×6m) 2連制
 播種: 5月15日
 移植: 6月4日 発生程度: 中発生
 調査日: 7月5日(移植31日後)、7月16日(移植42日後)、7月24日(移植50日後)、8月2日(移植59日後)、8月13日(移植70日後)、8月23日(移植80日後)
 調査方法: 各区10株を2回たたき、払落し法で虫数を調査した。

▶ヒメトビウンカに対する効果



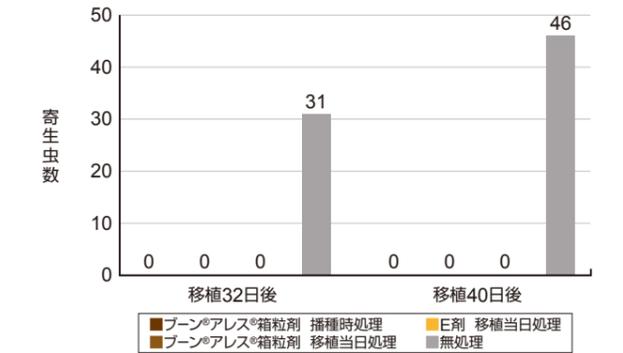
2019年 一般社団法人 日本植物防疫協会宮崎試験場
 品種: ヒノヒカリ
 区制・面積: 85.5㎡ (4.5m×19m) 連制なし
 播種: 6月9日
 移植: 6月28日 発生程度: 少発生
 調査日: 7月12日(移植14日後)、7月23日(移植25日後)、8月5日(移植38日後)、8月19日(移植52日後)、9月2日(移植66日後)
 調査方法: 各区100株(25日後以降は30株)について払落し法で虫数を調査した。

▶コブノメイガに対する効果



2019年 愛媛県農林水産研究所
 品種: ヒノヒカリ
 区制・面積: 115㎡ (7.2m×16m) 連制なし
 播種: 5月31日
 移植: 6月19日 発生程度: 少発生
 調査日: 8月5日(移植47日後)、8月17日(移植59日後)
 調査方法: 各区300株×3カ所について上位2葉の被害葉数を調査した。

▶イネドロオイムシに対する効果



2019年 一般社団法人 日本植物防疫協会茨城試験場
 品種: コシヒカリ
 区制・面積: 109.2㎡ (4.2m×26m) 連制なし
 播種: 4月11日 移植: 5月2日 発生程度: 少発生
 調査日: 6月3日(移植32日後)、6月11日(移植40日後)
 調査方法: 移植32日後は各区連続した50株3カ所について、移植40日後は全株について成虫、卵塊、幼虫および菌数を調査した。